新連載　うれないし列伝

第一話　折れたニンジン

山田海月(やまだみつき)

私は売れない占い師。
へへ、私の事をみんなこう呼んで励ましてくれるんだ。
売れない占い師なんていやだなと思う時もあるけど、でもそれほど気にしていない。きっとそのうち小さなつぼみが咲く時がくるって、さ。
ところで占い師の人ってホント見かけは怖そうだけど、いい人もいるじゃんと思うんだ。
ある日、私はいつものように占いのお仕事に出かける。あ、いけない。ウサギのウサコにエサを忘れてしまった。私は隣の席に座ってる占い師さんにささやく。すると「いいよ、ウサコのエサあげてきなよ」って言ってくれた。私は「エサはいつもスーパーでキャベツの葉をもらってきて、あげるんだけど今日はそれがないんだ」とその占い師さんに訴えます。
だって売れない占い師のだから、生活も大変厳しい状況なんです。隣の占い師がごそごそしたかと思うと折れたニンジンをそっと出しました。「どうされたんですか？」と尋ねると、「何言ってるの、あんたのウサコの為に買ってあげたのよ」。
「ええっ、私の為にですか？」「そうよ、困っている時は助けあいよ」「でもなんでニンジン折れてるんですか？」。私は気になって仕方ありません。
「私がレジに行く前に折ったのよ。こうすればお店の人も傷ものだからと安くしてくれるでしょ。安く手に入れる魔術さ」「誰かに見られなかったですか。そんなことして大丈夫ですか？」
「貴方のウサコが可愛いからよ。誰が見てようと平気よ」。そう言って折れた（折った？）ニンジンをくれました。私はともかく、そそくさとウサコの元へニンジンを持っていきました。
ウサコは今日は違うエサなので、とても嬉しそう。私も微笑ましいです。隣の占い師さんのお陰です。
でも、折れたニンジンはいったいいくらだったんだろう。30円、50円、60円？　隣の占い師さんはいつもこんな感じでお買い物してるのかな？　年金暮らしだと言っていけど、日々の生活が大変なのかな。私は何をお礼したらいいんだろう。考えることばかりです。
…これは、ホントに小さな小さな出来事ですが、隣の占い師さんは見かけはとっても怖いけど、心はホットコーヒーのような人ですよと言うお話です。
ホットコーヒーのような人ってどんな人かは、聞かないで。隣の占い師さんみたいな人のことなんですから。